

OSANAI KOI
(1999)



NAMI



NATSUE

えと文だったい月きおし

なお、もっと古い橋本みつる作品の紹介をした拙文には、<http://www.asahi-net.or.jp/~ug5k-tki/comic/comic.html> アクセスできるので、よろしく。

どうも。インターネットにおける橋本みつるの
えらい人(笑)、たこいと申します。いや、実はな
にもえらいことをしているわけではなくて、昔か
ら書きためていた橋本みつるについての文章を自
分のホームページで公開していただけなんですけ
ね。

そんな訳ですが、今回は世界でただ一つの(笑)
橋本みつるサイトを運営されている紗哉さんが橋
本みつるの紹介本を作るということで、微力なが
らお手伝いさせていただきます。まあ、1ペー
ジだけおつきあいください(笑)。

「ナミは
光る私ばかり見たいのよ!!
そんなのイヤ!」

台詞は橋本みつるの現在のところ最新作「幼
恋」より。掲載誌はソニー・マガジンス発行の別
冊きみとぼく1999年夏の号。

物語は中学1年生の少女、ナツエが転校前の最
後のチャンスに、同じ電車でいつも懂れていた少
年に告白しようとするところから始まる。

駅を降りて、人気のない道で少年に近づいたナ
ツエの体は、しかしなぜか光を発し始める。あま
りの異常事態に、告白どころではなくその場から
遁走するナツエ。

それから間もなく、ナツエが転校した学校には、
偶然にも先に転校してきていた少年、ナミがいた。
自分に近づくと光を発するナツエに興味を持つナ
ミ。やがて二人は深夜の海岸で逢瀬を繰り返すよ
うになるが……。

この先のストーリーは……実はちょっと紹介で
きない。ナミには「ある秘密」があり、ナツエが
光る理由もそこで明らかになるのだが、それをこ
こで紹介してしまつては「お楽しみはこれから
だツ!!」というコラムのタイトルに反する(笑)。
是非とも本編を読んで、その「秘密」に驚き、余
韻を十二分に味わってもらいたい(因みにその
「秘密」とそこから派生する「驚き」、その余韻は、
SFファンがいちばんプリミティブな「SFの感
動」と感じている感覚と等価のものである……と思
う)。

橋本みつる作品の特徴である生々しくもピュア
な感情が86ページというページ数分じっくりと描
き込まれ、そこに、おそらくは橋本みつる本人は
それと意識せずに描いてしまつたであろう「SF
の感動」も加わつた本作は、文句なし、橋本みつ
るの最高傑作である、と、橋本みつるの歴10年のた
こいが太鼓判を押そう!

因みにどこにも休刊とはうたつてないけど、実
は別冊きみとぼくはこの号で休刊(笑)とのこと。
白泉社セリエミステリーの休刊という試練(笑)か
ら立ち直つたばかりの橋本みつるファンにまたし
てもふりかかる試練(笑)。しかしそんなことであ
きらめてはいけない(笑)。たとえどれほど雑誌や
出版社を放浪しようとも橋本みつるに一生ついて
いく。それは一度橋本みつるに引きつけられてし
まつた人間の業のようなものだから(笑)。